

## 村上正邦の不惜身命

投稿日：2016年1月14日 作成者：M\_Murakami

ありがとうございます。

年賀に代えて。

平成28年の年明けです。

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

三が日は穏やかな天気恵まれ、皆様もきっと良いお正月を迎えることができたことと存じます。

私は今年のお正月を沖縄で迎えました。辺野古新基地建設問題で沖縄と国が正面から対決し、解決の目途は全く立っていません。こうした沖縄の息遣いを肌で知ろうとの思いもあって、沖縄の地で正月を迎えたのです。穏やかな素晴らしい初日を拝むことができました。

今年もこの「不惜身命」のブログを渾身の力で書き続けます。お読みいただければ幸いです。

朝月夜凍てつく天上まさに粋

世捨て人忘れられたか春の風

### ●第3次世界大戦が始まった

私は沖縄で初日を仰ぎながら、今年は激変の時代、多難な時代の始まりだと感じました。我が国だけでなく、世界が歴史的な大変動、大波乱の時代に突入しつつあるということです。

こうした状況にあって、この激動期の時代を如何に生くべきか、日本国はどうあるべきかを真剣に考え、行動に移すのが私の使命と心得、今年も死力を尽くす決意を新たにしました。

今年年明け早々、イランとサウジアラビアの国交断絶で俄かに中東がキナ臭くなってきました。昨年来のシリア情勢の緊迫化とイスラム国による血腥いテロで、中東やアフリカ諸国からの大量の難民が欧州諸国に流入し、各国を混乱に陥れています。フランスや欧州各地でイスラム過激派による自爆テロが頻発しています。

加えて1月6日、北朝鮮が突如、「水爆」実験を行い、隣接する韓国、中国、日本はもちろん世界に衝撃をもたらしました。

識者の中には、第3次世界大戦の始まりだ、との懸念すら表明されています。第3

次大戦後70年余の間、世界では各地で小規模な地域戦争がしばしば起きましたが、地球上を覆うような大戦争は、国連や米国を中心とする大国の抑制で辛うじて抑止されてきました。

しかし、ここにきて状況は大きく変化しつつあります。

これまで数世紀の間、蓋をされていた宗教対立が、一気に火を噴き出してきたのです。国家単位による戦争という概念が無効になりつつあり、国民国家の国境を越えた宗教勢力が大地殻変動をもたらしているのです。

加えて、新自由主義による野放図な経済活動はすでに限界に達しつつあり、我が国のみならず世界各国でも貧富の格差が拡大し、社会不安が醸成されています。資本主義の限界と言っているでしょう。成長一本やりの経済運営はもう破綻しているのです。アベノミクスは第一弾も第二弾も、いずれ失敗に終わるのは眼に見えています。

### ●日本人は本来の日本国を取り戻せ！

私たち日本人は明治維新以来、「西欧に追いつけ、追い越せ！」をスローガンに近代化を推し進めてきました。第1次大戦後は世界列強の一角に上り詰めましたが、結局は70年前の敗戦という破局に至りました。いま考えてみれば、西欧の近代化をそのまま鵜呑みにして、西欧を模倣してきた結果が、敗戦という破局をもたらしたのです。

西欧流の近代化とは、「自然を克服し、自然を征服する」という極めて合理的な考えに貫かれています。しかし、我が国は四季に恵まれ、豊かな風土の中で、「人間は自然に生かされている」という感覚を持ち、自然と一体化する中で、生きがいを求め、共同体を築き上げてきました。明治以来の近代化は、こうした我が国の歴史と伝統を忘却し、無理やり捻じ曲げて、推し進めてきたのです。

世界の大地殻変動が起きつつある今こそ、我が国は本来の面目に還らねばならぬと考えるのです。

限りある地球資源の中で、この大自然と一体化して生きてきた先人の知恵に学び、真摯に「維新」を追求すべきです。

維新という言葉は、水戸藩の藤田東湖が使っています。東湖は『詩経』の一節にある「周は旧邦なりといえども、その命これ新たなり」という言葉を引用しています。「維新」、つまり古くから続く国が、革新を繰り返し、新生するという決意を述べたものです。

維新、それこそが自然の中でいかされてきた日本人の使命だと考えるのです。

### ●安倍総理は国家の大道を指し示せ！

通常国会が正月4日に召集され、国会では補正予算をめぐって現在、審議が行われ

ています。この審議をテレビの国会中継で見て、我が国の国会はいったい何を議論しているのかという怒りにも似た思いが湧いてきます。

年初から世界を揺るがす大事件が生起しているにも関わらず、区々たるチマチマした議論に終始しています。世界史的な大地殻変動の中で、我が国の進むべき道は何か、日本人として、この事態にどう向かい合うべきかという大局に立った議論を期待していた私は失望を禁じ得ません。

激動の中に乗り出した明治維新期の政治家の決意と覚悟、そして勇猛果敢な生き方に学んで欲しいと思うのは、私だけではないと思うのです。

こうした混迷の時代だからこそ、政治家は国民に対し、国家の大道を指し示す堂々たる議論を巻き起こして欲しい。政権掌握4年目にあたる今年、安倍総理には気宇壮大、堂々と国民に国家の大道を呼びかけていただきたい。

感謝合掌

村上正邦の不惜身命

<http://blog.shunpunokai.com/>